

平成26年度第4回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成26年度第4回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成27年2月13日（金）午前9時30分～午前11時15分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議委員 柴山 裕子／小澤 一／竹田 和美／須田由美子／平出 香織
坂本 妙子／齊木 久壽
事務局 三井図書館長／長谷川 誠・小野 まどか・
植松 広樹（総務担当）／浅川 さつき（明野図書館）
鈴木 真由美（すたま森の図書館）／長屋 恵（たかね図書館）
細田恵子（ながさか図書館）／高野 裕子（金田一春彦記念図書館）／進藤 由美子（小淵沢図書館）／鈴木 規（ライブラリーはくしゅう）／齊木 紀恵子（むかわ図書館）
- (5) 議題：
 - (1) 平成27年度の当初予算について
 - (2) ほくと子ども読書の杜プランの進捗状況について
 - (3) 図書館協議会への臨時職員等の出席について
 - (4) 各図書館からの近況報告について
 - (5) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 非公開の理由：該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 審議内容
 - 1) 平成27年度の当初予算について
 - *事務局より平成27年度の概要について説明
 - ・臨時職員人件費は1,242,000円の増額。これは臨時職員の日給が増額に伴った増額分。
 - ・図書館管理運営事業費は787万5千円の増額。これは新規事業として金田一春彦先生並びに平山輝男先生のアーカイブ資料デジタル化事業を約800万円計上したためである。
 - ・図書館企画事業費は消耗品、報償費を削減し、全体で13万5千円の減額。
 - ・全体としては898万2千円の増額。

 - ・図書購入費は全体として42万1千円の減額。これは市の総合的な財政の健全化計画のなかで事業経費は前年度比5%ずつ削減することになっており、図書費も

減額となった。

- ・ただし今年度についてはながさか図書館とむかわ図書館に各100万円ずつ指定寄付があった。むかわ図書館については約70万円を図書の購入、30万円を書架の購入にあてることとし、ながさか図書館については100万円全て図書購入費にあてることになっている。
- ・本年度は指定寄付があり、図書購入費が当初予算よりも増加したが、市の厳しい財政を考えると、再来年度以降も図書購入費の減額は避けられないものと考えている。
- ・新規事業として検討していた「本の柱への招待事業」については、かつてブックスタートの事業仕分けにおいて本を配布するという方法が適切でない指摘をされているので、予算化はしないこととなった。セカンドブック事業、サードブック事業は本の配布はないが事業は継続していく。

委員：数年前には図書費が1800万円ほどあったと記憶している。このまま5%ずつ図書費が削減されていってしまえば、図書館としての機能を維持していないのではないか？

委員：図書購入費を削減せずにいってもらいたいという思いもあるが、現状の財政状況の中では、図書購入費が下がっていくことはやむを得ないのではないか。

委員：別の委員も行っているが、やはりそこでも予算を削減していかななくてはならない状況であり市の財政が厳しいのは間違いない。図書費が減っていくことは確かに問題だが、減っていくなかでどうしていくかということを考えていくしかないのではないか。

委員：1000万というラインを切っていってしまえば、図書館としても機能を果たしていけなくなるのではないかと危惧している。しかたがないからということで下がってしてしまうのではなく、図書館が市のなかで果たしている役割、意義などをしっかり訴えてほしい。

委員：せっかく来年度から開館時間の変更をし人件費を減らしたにも関わらず、図書費が減らされてしまっは意味がないと感じがしてしまう。

委員：市内に8図書館あることは素晴らしいことだと思う。図書費が減額していくと1館あたりの図書購入費も少なくなっていく。図書の購入については効率的に工夫をして購入をしていただき、1館あたりの図書費が少なくなるなら図書館の数を減らしたほうがいいのではという声があがらないようにしてほしい。

事務局：現在は、市内8図書館で一つの本については、1冊しか購入しないようにしている。

委員：減額はやむを得ない面もあるかと思うが、これ以上減額されないように事務局には頑張ってもらいたい。

委員：本の配布ができないというのは、不公平感があるからということなのか？

委員：事業仕分けのときに仕分け人からは、一方的にこちら側で良書を選んで渡してあげるだけでは本当の読書活動推進につながらないのではという意見が多かった。

ただし、2歳児は本に対する関心が高くなる月齢であり、ボランティアとして関わっている立場で親子が絵本を楽しそうに選んでいる様子を見ると本当になくしてしまっているの难道うかと思う。

事務局：本を配布はしないことになるが、セカンドブック、サードブックの事業自体は継続していく。

委員：目の前に本があって、どの本にしようか親子で選ぶことがとても重要だと思うので、非常に残念。

事務局：絵本の配布ができないなかで、どのようにセカンドブック、サードブックを続けていくか図書館としても検討をしている。例えば読んであげた本を記録できるような読書通帳のプレゼントなど、どのようなやり方があるか検討中。3月にはブックスタートのボランティアの会議を行う予定で、そこでは来年度どのように実施していくかお伝えできればと思う。

2) ほくと子ども読書の杜プランの進捗状況について

*事務局より説明

- ・国では「第2時子ども読書活動推進計画」を策定し、地方自治体においてもこの計画を策定するよう求められている中、平成25年2月に教育委員会として「ほくと子ども読書の杜プラン」を策定した。
- ・策定委員会からは、この計画が絵に描いた餅にならないように、計画推進委員会を設けて進捗状況を確認していける場を作ることが必要ではないかという意見があった。
- ・進捗状況の確認については、教育委員会内で検討した結果、別に推進委員会を設けるのではなく、図書館には館長の諮問機関としての図書館協議会があるので、図書館協議会の場でプランの進捗状況を確認してもらえればいいのではないかという結論になったため、報告する。

1.-(1)家庭における子どもの読書活動推進

- ・家庭における読書活動については、状況を掌握することがなかなか難しく、一つの課題である。

1.-(2)地域における子どもの読書活動の推進

・読み聞かせやおはなし会を行っている施設は 20 施設中 16 施設と大半を占めるが、図書館の団体貸出を利用している施設は 9 団体と少ない。団体利用についてはさらに周知していく必要がある。

1.-(3)行政による子どもの読書活動の推進

・健康増進課と協力しブックスタート事業の実施をしている。子育て支援課では子育て情報サイト「やまねっと」による子供向けイベントの情報提供を行っている。生涯学習課では、年に 2 回生涯学習誌「まなびの杜」を発行し、イベントの情報提供に努めている。

2.-(1)学校における子どもの読書活動の推進

・朝読の時間を設けている学校は 20 校中 19 校で行われている。そのなかでも 6 校は毎日実施するなど、市内の小中学校では朝読は定着していることが分かる。

・現在、県教育委員会で積極的に推進している家読（うちどく）については、18 校が推進を行っている。それぞれの学校でさまざまな取り組みが行われているが、高根町内の小中学校とたかね図書館で共同して今年の夏に開催した家読ポストカードの取り組みが先進的な取り組みとのことで、先日開催された県主催の「こころの育成フォーラム」で事例発表をした。

・教育後援会や保護者などからの寄付などの活用や統廃合する学校図書館の蔵書に移管するなどし、学校図書館蔵書の充実を図っている。

2.-(2)保育園における読書活動の推進

・図書館におけるおはなし会を年 30 回（8 館合計）実施しており、他にもボランティア、保護者による読み聞かせなども 15 施設中 10 施設で行っている。

・一方で図書館の団体利用については 5 施設しか利用しておらず、周知を徹底していきたい。

3.図書館における子ども読書活動の推進

・児童資料、ヤングアダルト資料についても積極的に収集している。

・おはなし会、各種イベントについても定例、定例以外を含め 150 回以上開催し 1500 人以上の方の参加があった。

・26 年度からは、子どもが産まれる前の夫婦対象に行っているママパパ学級の際に読み聞かせの効果などについてお伝えしている。

・学校図書館との連携会議を各町毎に年に 1～3 回実施している。公共図書館と学校図書館との定期的な会議については、全県でみても数少ない先進的な取り組みだと評価をいただいている。

- ・障害のある子どもへの読書活動の支援については、現在のところは実施できていない。まずは図書館としてどのようなことができるのか、さまざまな事例を調査していきたい。
- ・ボランティア養成・研修については、昨年9月には阿刀田高トークLIVEをボランティア研修をかねて実施した。
- ・昨年9月には図書館ボランティアや学校で読み聞かせのボランティアなどを行っている方のために、各図書館から読み聞かせにおススメの本を持ち寄り紹介する「読み聞かせフェア」を行った。
- ・地域団体との連携については、昨年、映画「じんじん」を北杜市で上映する会とともに映画「じんじん」の上映会を実施し、

4.子ども読書活動推進の啓発・普及・広報の推進

- ・毎年子ども読書の日を中心に図書館ではさまざまなイベントを開催し、読書についての啓発を行うとともに、図書館情報誌やホームページ、市の広報などを通じて普及を図っている。

5.子ども読書活動推進体制の確立

- ・県内、県外図書館との連携については、県内図書館とは県公共図書館協会内の相互貸借については、県立図書館を通じて週1回やり取りを行っている。
- ・国立国会図書館では所蔵資料の一部をデジタル化し、各地の図書館で閲覧できるサービスを開始している。市内の図書館でもこのサービスを受けられるように申請を行っており、来年度のはじめぐらいにはサービスを開始できるよう準備している。
- ・市民団体やボランティアとの協同については、子ども図書館まつりにおいてもボランティア紹介コーナーを設置するとともに、さまざまな事業についても協力をいただきながら図書館事業を進めてきている。

委員：朝読を実施していない学校が1校あるが、全体としての取り組みとしてできないのか。

事務局：学校ではさまざまな状況があるので、強制することはできないが、やってみませんかという願いはできる。

委員：せっかくプランがでているのだから市として音頭をとって実施していない学校に推進していくことができないのか。

事務局：プランには数値目標などは明示されていないが、市全体として取り組むべき方向性を示したプランなので、学校への推進は図っていきたい。

委員：各学校によっては、体育や道徳教育などさまざまな指定校になっていたり

する現状があり、教務以外でやらなければいけない課題が多い学校もあり、朝読に取り組みたくても取り組めないのではないかな。

委員：学校現場にはさまざまな現状があり、強制できるものではないと思う。

委員：障害のある子どもに向けてのサービスについては、実施せずとなっているが、状況調査やどんなことが求められているのかを調査して前向きに取り組んでもらいたいので、その旨文言を変えてもらいたい。

事務局：「実施へ向けて調査を進める」という文言に改める。

委員：推進委員会の設置についても「設置せず」となっている。確かに設置委員会とすると事務局の負担も大きいし堅苦しいものになってしまうが、関係者や保護者などが気軽に集まって、子どもの読書推進に対して意見を出し合えるような場を作れないかな。

私は当時プランの策定委員をしており、プランの策定に関わっていた。委員の中からは、こうしたプランは作っただけで実施されず絵に描いた餅になってしまうことが多いので、推進委員会のようなものを作ってプランが実行されているか確認をしていきたいという話しになり、推進委員会の設置という文言が盛り込まれた経緯がある。「設置せず」とされてしまうと話しが違うのではないかなと思ってしまう。

事務局：図書館協議会があるので改めて推進委員会を設置するのではなく、図書館協議会のなかで報告をさせていただき委員の皆さんに進捗状況を確認していただきたい。

委員：あくまでもこれは26年度の報告であるので、26年度は「実施しなかった」ということであって、今後の話は別なのではないかな。それであれば、「今後については検討の余地あり」というような文言を追加すればよいのではないかな。

委員：委員会の設置については今後検討する旨の文言を追加する。

3) 図書館協議会への臨時職員等の出席について

*事務局より説明

- ・館によっては2人体制のところもあり、各館から1名ずつ協議会に参加することが負担が大きいなかで、どのようにしたらよいか検討をした
- ・各年度の初回については、顔あわせをかねて各館から代表1名が参加する。2回目以降は、各館からは出席しないこととし、各館の近況報告については中央館の3名がそれぞれの担当の館の近況報告をするかたちで来年度以降やっていたらと考えている。
- ・学校図書館司書の代表の参加についても、現在ほとんど学校図書館に関わる議

題が少なくなっており、毎回出席してもらわないといけないのではないかと考えている。来年度以降は、基本的には出席をしないこととするが学校図書館に関する議題がある場合には出席をしていただくということでやっていければと考えている。

委員：館責が出席しなくなった場合に、協議会で決まった内容は各館に伝えられるのか。

事務局：毎月1回、中央館と館責で集まり運営会議を行っているので、協議会の内容はそこで報告することができる。また協議会に諮る案件についても事前に運営会議で検討することとなる。

委員：近況報告だけではなく、各館が抱えている課題などについても中央館の担当から協議会に報告がなされるということでもいいか。

事務局：各館の課題についてもしっかりと中央館職員で把握し報告していけるようにしていく。

委員：中央館の職員が担当をもっていることを知らなかった。時々顔を出すことだけではその館の状況を把握できないのではないか。担当の職員には年に何回かでも構わないので、丸1日その館にいて業務に携わってもらい各館の置かれている状況（子どもの利用の件など）について把握をしてもらいたい。それがないと単なる事業の報告だけになってしまうのではないか。

事務局：今までも時間をとって各館に行くことにはなっていたが、なかなか頻繁に行くことはできていない。今後、中央館の担当で各館の報告をするということになれば、今まで以上に各館の状況を把握しなければいけないので、しっかり時間を作って各館に顔を出すようにしていきたい。

司書：一日だけ来てもらっても状況の把握は難しいのではないか。

司書：中央館の職員にはできる限り各館の様子を見に来てもらい、実際に目で見て状況をしっかりとってもらいたい。

委員：むかわ図書館や明野図書館では児童館を利用している子どもが騒々しい現状がある。

事務局：複合施設での課題は各館から聞いている。子育て支援課や生涯学習課とも協議をし、お願いすることはお願いしている。

委員：今、現在では中央館の担当が各館をまわっているのか。

事務局：定期的に月1回各館にいつているということはない。何かのついでのときやイベントなどのときに各館にいつている。

委員：定期的に、例えば協議会の前には担当が各館を回って、館責以外の職員にも話しを聞き、そこであがった課題などを協議会で報告してもらえ

ばと思う。

委員：館責が出てこない各館の様子が見えなくなることを心配している。担当がしっかり各館の状況を把握して報告してもらえるのであれば、館責については年度初めの1回のみ参加で構わない。

委員：学校図書館の司書に参加してもらわないという話であるが、協議会開催の通知も出さないのか。

事務局：出席をお願いするとき以外は通知を出さない予定である。

委員：学校に関する議題がないときでも、学校には通知をだしてもらいたい。出席するかしないかについては、学校図書館の先生に決めてもらえばいいのではないか。関わる議題がある場合は、特に出席をお願いするかたちでどうか。

事務局：毎回、通知は出すこととし、関係する議題がある場合には、出席をお願いする。特に関係する議題がない場合は、逆に学校図書館から図書館協議会に報告したい内容がある場合には参加してもらいたいということで連絡をしていく。

4) 各図書館からの報告について

●全体

- ・11月に藪内正幸原画展を行った。
- ・11月22日、23日には映画「じんじん」の上映会を行い、800人以上の参加があった。
- ・3月7日には絵本作家鈴木のりたけさんをお招きし「子ども図書館まつり」を開催する。

●明野図書館

- ・明野図書館ファンクラブの協力でさまざまな事業を行うことができた。毎年開催している「音楽と朗読のつどい」は、藪内正幸原画展記念として藪内竜太館長の講演とあわせて開催した。

●すたま森の図書館

- ・新春アリススペシャルおはなし劇場は参加者120名で盛大に開催できた。
- ・館内には食事をするスペースがなかったが、2階の使っていない部屋を昼時だけ食事スペースとして開放をはじめた。
- ・県立図書館で出している「やまなし子どもの読書情報」に昨年5月におこなったぬいぐるみのお泊り会&おはなし会が取り上げられた。

●たかね図書館

- ・2月6日には県教育委員会主催「しなやかな心の育成フォーラム」において、高根町内学校図書館と共同でおこなった家読ポストカードの取り組みを事例報告してきた。

●ながさか図書館

- ・12月に町内の中高生によるビブリオバトルをはじめて行った。広く周知はせず、学校内だけの周知にとどめた。参加していた生徒たちが学校の枠を超えて交流している様子が見受けられた。

●金田一春彦記念図書館

- ・11月に方言講座、1月には甲陵高校茶道部によるお茶会などをおこなった。
- ・毎月1回の読書会も定着してきた。

●小淵沢図書館

- ・3月23日にリニューアルオープン。
- ・3月はじめからは館内に入って開館準備を進めていく。

●ライブラリーはくしゅう

- ・甲州弁のワークショップは、夏にやっている甲州弁を楽しむ会をやっているボランティアの方々とともに今年度はじめて行った。

●むかわ図書館

- ・10月には出張土曜ことば楽、1月に白州町と武川町合同で学校図書館連携会議を行った。

委員：ながさか図書館で開催したビブリオバトルへの参加者12名の内訳は。

司書：中高生2、3名。先生を含めた大人10名ほど。県の教育委員会でもビブリオバトルを推進しており、北杜高校でも熱心に関わってくれた。

委員：小淵沢図書館のリニューアルオープンについてはどのような作業を行うのか。

事務局：書架から一旦図書を出しているものもあるので、それを戻す作業や、一部書架の移動を行うので、図書の移動などもある。

委員：その作業をボランティアの方に協力をしてもらってやることは考えているのか？

事務局：小淵沢で登録されているボランティアの方には協力をお願いしている。

委員：チラシなどを作って、そのほかにも広く協力を要請したらどうか。

事務局：呼びかけていきたい。

委員：金田一名誉館長の土曜ことば楽について来年度はどのように実施する予定か。

事務局：今年度と同じく年8回を予定している。今年度と違い前期4回（4,5,6,7月）を金田一図書館で行い、後期4回（9,10,11,12月）を同じ内容で他館で行う。

後期 4 回は明野、はくしゅう、小淵沢の 3 館と甲陵高校での開催を予定している。

(6) その他

特になし

以上